

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	釜石市すくすく親子教室			
○保護者評価実施期間	7年 1月 30日	~	7年 2月 21日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	7年 1月 30日	~	7年 2月 14日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○訪問先施設評価実施期間	7年 1月 30日	~	7年 2月 21日	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8施設	(回答数)	7施設
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援と保育所等訪問支援の並行利用により、対象児の状態を把握したうえで訪問支援を行うことができる。	・訪問時に児童発達支援での様子を訪問先施設の先生にお伝えし、対応方法等を共有することができるようになっている。	・訪問先施設の先生に当事業所（児童発達支援）での対象児の様子を見学してもらい、連携を行っていく。
2	・訪問先、保護者との信頼関係	・訪問時に対象児の園・学校での状況を丁寧に聞き取るようにしている。 ・保護者、訪問先施設の先生に寄り添い、園の先生が保育の中に取り入れやすい支援方法を提案している。	・訪問先での困り感や相談事があれば、迅速に対応し、さらに信頼関係を深めていく。
3	・保育所等訪問支援後に家族、訪問先施設に対して丁寧に支援内容等を共有。	・訪問時の内容を報告書として作成。保護者には児童発達支援事業を利用した時に丁寧に説明している。 ・訪問先施設には保護者に説明後、報告書を渡している。必要に応じて報告時の保護者の様子や保護者の考え方を伝えている。	・保護者へ訪問先施設への説明、情報共有を密に行い、より良い支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援員の育成	・保育所等訪問支援事業の利用の増加。 ・訪問支援の経験が浅い職員に対しての同行しての研修などが少なかった。	・OJTや多職種と連携しながら訪問支援員の育成を図っていく。 ・研修会等でスキルアップの向上を目指す。 ・経験を重ねながら、訪問スキルの獲得を目指す。
2	・保育所等訪問支援のみ利用の保護者への家族支援	・保護者からの訪問の要望がなかった。 ・保護者との密に連絡がとれず、訪問支援を継続できなかった。 ・保護者が支援を必要としておらず、関係者から勧められたから利用しているケースがあった。	・保育所等訪問支援のみを利用する保護者に対して事前により丁寧な説明を行う。 ・保護者との連絡方法を検討。保護者に理解してもらうと共に、負担とならないような支援体制を検討する。
3			